

別紙2		令和8年度 国分寺市立第九小学校 自己評価(中間)						国分寺市立第九小学校 校長 宇田川 真	
教 育 目 標		○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子) ◎思いやりのある子(心優しく、助け合う子) ○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)							
めざす学校像		○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校 ○いじめのない、子供が安心して通える学校 ○子供と地域社会を結ぶ学校							
めざす教師像		○学びと体力向上の喜びを与える教師 ○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師 ○けじめある指導を適切に行う教師 ○誠意をもって外部応対できる教師							
努力指標は4段階でご記入ください。									
努力指標・成果指標の数値は4段階評定です。									
領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
知育徳育	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示	4			3	・ICT機器を積極的に活用することで、基礎・基本の定着を図ることができた。また、習熟度に応じた支援を意識することで、学習内容の理解を深める児童が増えた。 ・ICT機器の活用を行っているが、児童用端末の不具合が起こり、学習進度に差が出てしまうことがある。	・家庭学習の目的や取り組み方を児童に繰り返し指導するとともに、週予定などを活用し、見通しをもって取り組めるよう支援する。また、家庭とも連携しながら提出状況や学習内容を共有し、基礎・基本の定着につながる家庭学習の充実を図る。 ・個別指導やICT機器を効果的に活用し、児童一人一人の習熟度に応じた指導を充実させていく。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	4			3	・図書の時間を確保すると同時に、教室での読み聞かせ活動に重点的に取り組んだ。本が好きな児童が次第に増えてきている現状は取り組みの効果といえる。 ・読書活動を通して得たことを文章でまとめたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする力に課題が見られ、言語能力のさらなる育成が必要である。	・授業では「読む・書く・伝える」を関連付けた言語活動を意図的に取り入れる。読書後の感想や自分の考えを書く機会、本の紹介や話し合い活動を充実させることで、自分の思いや考えを文章や言葉で分かりやすく表現する力の育成を図っていく。 ・読書が好きな児童とそうでない児童の差があるので、読書が苦手な児童には、興味をもてるように教員が積極的に働きかけるようにする。
	豊かな人間性の確立	けじめある学校生活	計画的な授業の実施、学習規律の確立、あいさつの励行、「九小の約束」の徹底	4			3	・「九小の約束」についても、学年全体で継続的に指導したことで、児童が共通のルールを意識して学校生活を送る姿が見られた。 ・全体で取り組もうとする意識は高いが、個人で守れているかは定かではない時がある。いけないことの理解はしているが、行動が伴っていない児童もいる。	・教師が一方的に指導するのではなく、児童とともに考えながらルールの徹底を図っていくようにする。できていない児童ばかりではなく、できている児童を全体で価値づけていくようにする。 ・習慣化できるように継続して声をかけていく。 ・授業時間以外を「自由な時間」とするのではなく、「準備をする時間」として、5分休みや給食準備の時間の行動をもう一度とらえ直す必要がある。
		思いやりと感謝の心の育成	児童理解のための教員研修、考え、議論する道徳授業の充実、縦割り班活動、「九小タイム」の充実	4			3	・九小タイムでの異学年との交流で、下の学年のことを考えた遊びの計画などができている。 ・週に1回の生活指導夕会を通して児童理解を深め、児童の実態に応じた支援の在り方について、継続的に協議することができた。また、道徳では題材を通して育てたい資質・能力を明確にし、児童が本音で考えや思いを伝え合える授業づくりを意識して実践した。 ・ふとしたときの「ありがとうございます」「おねがいします」などの言葉を大事にさせたい。	・今後も生活指導夕会を継続し、支援を必要とする児童について教員間で情報共有を密に行い、一貫した支援体制を構築していく。また、道徳では児童が多様な考えに触れながら主体的に考え、議論できる授業づくりを一層充実させる。 ・縦割り班活動「九小タイム」を継続し、異学年との関わりを通して、思いやりや感謝の気持ちを育み、豊かな人間性の育成につなげていく。
健全育成	健康でたくましい心身の育成	食の教育の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流	4			3	・栄養士との連携で給食の配膳の仕方を学んだり、給食室へのワゴンを取りに行くときに、実際に給食をつくってくれた調理員とのかかわりを通じて、食への理解を進めた。 ・給食をよく食べる児童が多いが、偏食や小食の児童も多くなる。事前に減らして完食を目指すようにしている。食べたことのないものに対しての苦手意識も強い(新メニューなど)	・残菜を減らすための声かけや給食委員会の取組を効果的に行っていく。 ・学級の実態に応じた「もくもぐタイム」の時間などを活用し、完食することや栄養について考えていくことを目指す。
		体力増進に向けた活動の充実	運動量の確保を目指す体育学習、「九小ギネス」～長縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	4			4	・体育の時間では、運動量を確保することができている。休み時間にはほとんどの児童が外に出て元気に遊ぶことができている。 ・休み時間に一部の児童が、外に出たがらない状況がある。	・今後も、外遊びを推奨する。また、クラス遊びを充実させるなど、昼休みも外で、楽しく遊べる環境を作っていく。 ・外遊びをしたがらない児童に対して声掛けし、縄跳び集会などを活かし、外遊びを促す。
		児童の危機意識の向上	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期の安全指導・朝会・安全点検、危機回避能力の育成	4			3	・避難訓練は毎回、緊張感をもち、取り組むことができている。一方で廊下を走るなど危機回避能力には課題がある。 ・学校へ登下校する際に、行ったりはけない場所に行ったり、フェンスを上るなど危険な行動をする児童がいる。	・安全について継続して伝えていく。登下校時や校内で、安全にルールを守って歩行できるよう、引き続き指導をしていく。 ・避難訓練、不審者対応の訓練など、緊張感をもって取り組めるよう、引き続き指導をしていく。
地域連携	保護者・地域との連携	体験的な学習の充実	学校運営協議会として、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習や体験的学習を取り入れた授業実践の充実	4			4	・学校運営協議会との年間予定を見通した打ち合わせや、サポーターの方々との連携や人材の調整が十分にできている。 ・ボランティアのサポートのお陰で、行事などの活動がより充実している。 ・農園での活動や、実際に見学に行ったりインタビューしたりする経験を通して、学習内容を身近に感じることができている。	・体験した活動を日常的な授業の導入等に活用する。また、時期も重要になってくるので、体験学習の時期を計画的に設定するようにしていく。 ・年度ごとに実態が異なることや、特に高学年は余力が少ないので、内容の精査が必要。
		教育活動の公開や情報発信	学校の教育活動に関する分かりやすい情報発信	4			3	・九ちゃんブログで定期的に活動内容を発信できている。また、学級だよりや学年だよりを使って、児童の様子を伝えることもできている。	・連絡帳やテロルなどを有効に活用し、保護者との連携を深めていく。 ・担当ではなく、学年でも積極的に九小ブログを活用していく。
	と働き実方感の効向率上化	時間外在校時間を月45時間以下	会議の精選・勤務時間内における打ち合わせ時間の確保 各行事実施案の質を向上させ、時間外在校時間の削減 時間外における保護者等の面談の時間の削減	4			3	・行事や内容の精選・厳選をさらに進めると同時に、優先順位を考えた業務推進を心がけたが、必要な業務内容が多く、時間外在校時間を適切な量にすることが難しかった。	・取り組むことの優先順位をつけたり、学年でより効率的にできる役割分担を行ったりして、目標に迫れるようにしたい。 ・教材研究など、事前に進められるものは、夏休み中に学年で分担して行っておく。 ・会議の内容を精選し、事前の準備を工夫する。可能な限り、開始時間を早める。